



おがわ すいめん あつ
小川の水面に集まった、スイカの種のような虫は何なの

あつ
ミズスマシが集まっていた

すいちゅう すいせい ちゅう には、くろ はね もつ カブトムシなどと同じ仲間の、ミズスマシやゲンゴロウ、ガムシなどがいます。このうち、ゲンゴロウやガムシは、水中にもぐって生活しますが、ミズスマシは、おもに水面で生活しています。体の形はスイカの種のようなですね。水面で群をつくって休んでいたり、水面をぐるぐる回っていることがあります。水面に落ちてくる虫を、ねらっているのです。

すいじょう すいちゅう み
水上と水中を見ることができる目をもつ

ミズスマシは、複眼(たくさんの目が集まって一つになっている目)を上下に2組もって、上側の2個は、水面や空中を見るのに使い、下側の2個は、水中のものを見るようにできています。敵におそわれると、羽の下に空気をためて水中にもぐり、その空気を吸って、水中でも息ができるのです。

ミズスマシの幼虫は、腹部にとび出した長いえらをもち、えらで水中の酸素を吸っています。えさは、ボウフラなどです。さなぎになるときは、水辺の石や植物の葉の上に、どろで部屋を作り、その中で羽化をまちます。(監修・中山 周平)

